

安全衛生

私たち三井金属グループは、労働安全衛生を守ることは事業継続のためには不可欠であるとの認識を共有し、従業員が安心して働けるのはもちろん、協力会社、請負業者や事業所への来訪者も対象として、安全な職場環境の整備に努めています。また、COVID-19への対応、安全活動のグローバル展開や、三井金属人事制度の刷新に伴う安全対策の強化など、安全衛生の取組みを進化させています。

方針と管理体制

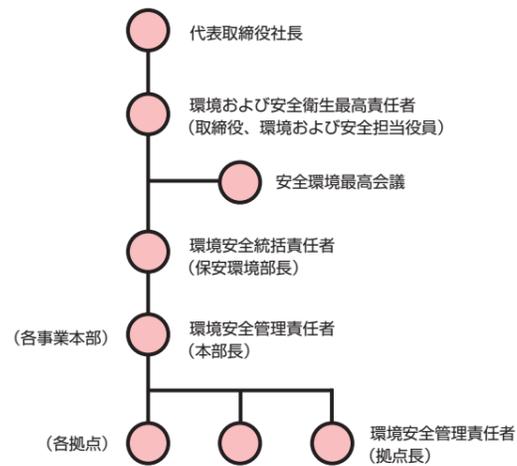
三井金属グループは「働くすべての人々の安全と健康の確保が、事業活動を行なう上で最も重要である」とする安全衛生基本方針に基づき、安全かつ衛生的で働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。また、安全を第一とする企業文化の醸成は、生産性向上と操業や事業へのリスク低減に加え、中長期的には従業員との強固な信頼関係の構築、事業基盤の強化につながると考えています。

COVID-19の影響により、移動制限のある地域において、ICTを活用してリモート形式で安全監査を実施しました。リモートで確認できない箇所は、移動制限解除後の往査で重点的にチェックしています。



(社内安全監査)

環境および安全の管理体制



安全衛生マネジメントシステム

三井金属グループの主要拠点はISO45001に沿って労働安全衛生マネジメントを行なっています。小規模拠点については社内認証システムを構築しています。各拠点ではPDCAを定期的に回しマネジメントの実効性のスパイラルアップを図っています。レビューにより特定された課題の改善を、リスクアセスメントおよび安全衛生トレーニング等の施策に落とし込んでいます。

安全監査

拠点における現場でのマネジメントシステムの運用状況を確認するために、定期的に社内安全監査を実施しています。社内安全監査では、法令および三井金属グループ自主基準の遵守状況の確認、危険箇所の指摘および改善のフォローアップを行なっています。

安全衛生トレーニング

三井金属グループは、従業員に対し、定期的に安全衛生トレーニングを実施し、安全衛生意識の向上、安全衛生コンプライアンスの徹底や、安全を第一とする文化の浸透を図っています。

トレーニング用の各種教材は多言語で提供しており、社内イントラネットで公開しています。従業員がいつでも確認や引用できるよう、管理運営しています。

2021年度実施の安全衛生トレーニング

目的	主なトレーニング	実施方法
グループ全体の安全衛生の知識の向上 (階層別知識、重点取り組み、優良事例、最新安全トレンド)	<ul style="list-style-type: none"> 新入社員研修 階層別教育 安全衛生法令研修 外部講師による研修会 	リモート
製造現場における安全ルールの遵守、危険感受性の向上	<ul style="list-style-type: none"> KY(危険予知)活動 危険体感トレーニング リスクアセスメント教育 安全コミュニケーション活動 安全保護具教育 緊急時訓練(火災・地震) 	「三密」対策のうえ対面式

* 安全衛生に関するほかの情報は当社ホームページにてご覧頂けます。
<https://www.mitsui-kinzoku.com/csr/society/occupational/>

災害防止の取組み

(1) ロックアウトシステムの運用

機械設備を停止し、掃除・給油・点検・修理・調整・工事などを共同作業で行なっている時に、誤ってスイッチを入れてしまうといったヒューマンエラーによる誤操作が原因となり発生する災害があります。「ロックアウトシステム」は、機械装置の動力源を遮断、施錠することで誤操作による労働災害を防ぎ、作業者の安全を守るためのシステムです。2019年度より国内で導入しており、運用実情のレビューとともに、2021年度、海外のすべての拠点でも本格運用を開始しました。2022年度以降、圧力、温度、液などの遮断についても実施を検討し、対象設備の拡大に取り組んでいきます。

(2) 安全基準の新規制定

機械や機器の誤操作に起因する災害の防止を目的として、2021年度、「三井金属フォークリフト装備基準」と「三井金属ディスクグラインダー使用基準」を新規制定しました。社内外の災害事例を参考に、装備や使用時、遵守すべき規則をグループ統一の基準として整備しました。基準と解説資料は日本語、英語と中国語で提供し、国内外全拠点で運用開始しました。2022年度以降、運用の実情を社内安全監査でレビューしていきます。

(3) 高齢従業員の安全対策

三井金属は2021年度から定年年齢を65歳に引き上げました。また、日本社会の高年齢化とともに当社従業員の年齢構成も今後高年齢化が進むと予測される中、高齢従業員が安全・安心に働き、生涯にわたり活躍できるよう、高齢従業員向け安全管理体制の構築に取り組んでいます。

加齢により一部身体機能が低下する傾向があり、これが一因で高齢従業員の労働災害発生率が高くなる可能性があります。2021年度、管理監督者および高齢従業員を対象に高齢者安全研修を実施しました。また、リスクアセスメント実施の上、照明の改善、段差の解消や暑熱対策など働きやすい職場環境づくりとともに、高齢従業員でも安全に操作できるよう、作業マニュアルの一部見直しに取り組みました。次年度以降も活動を継続する計画です。

2021年の安全成績

災害度数率は国内連結子会社を除き、製造業平均や非鉄金属製造業平均を大幅に下回る結果でした。また、災害強度率はいずれも業界平均を下回りました。

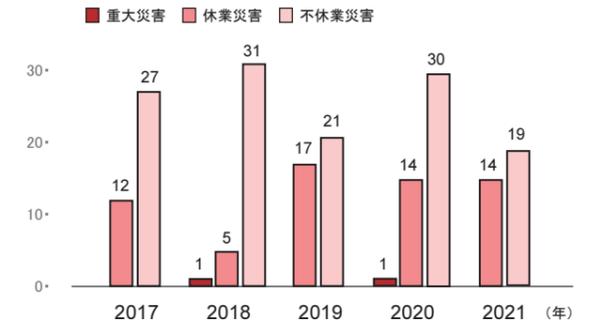
引続き災害発生の原因を分析し、再発防止の対策を進めていきます。

* 災害度数率の集計実績に誤りがありましたため、2017年から2020年の数値を今回修正しています。

安全成績

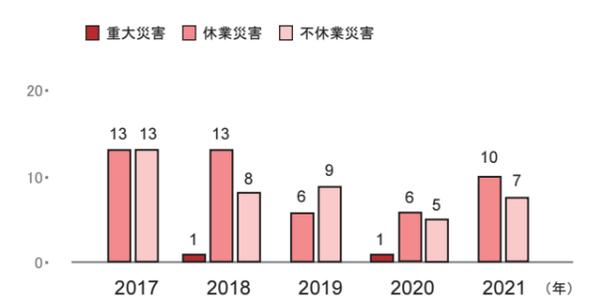
国内拠点の災害発生件数の推移

※ 協力会社・請負業者で発生した災害も含めています。



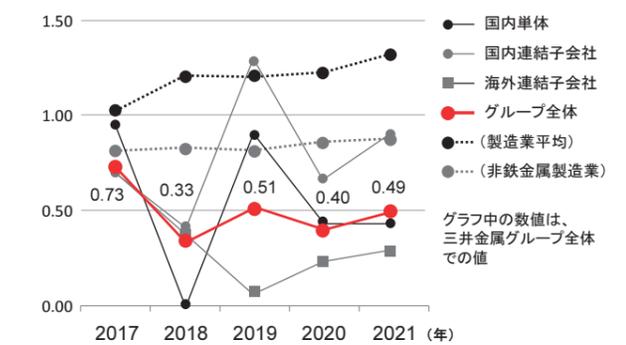
海外拠点の災害発生件数の推移

※ 協力会社・請負業者で発生した災害も含めています。



災害度数率の推移

* 協力会社・請負会社の社員による災害は含めていません。



災害強度率の推移

* 協力会社・請負会社の社員による災害は含めていません。

